

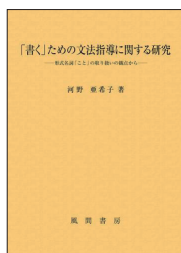
言語を基盤とした教科等横断的指導に関する研究

—思考力と表現力の相互育成—

山田丈美 著

A5判 244頁 定価7,700円
ISBN 978-4-7599-2419-0 (2022.1)

言語と思考と表現の関係モデルから国語科を中心に教科等横断的指導を構想・実践。思考力と表現力の相互育成の有効性を実証的に検討。



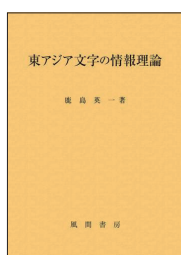
「書く」ための文法指導に関する研究

—形式名詞「こと」の取り扱いの観点から—

河野亜希子 著

A5判 250頁 定価7,150円
ISBN 978-4-7599-2403-6 (2021.10)

形式名詞「こと」を一つの足掛かりとして、「書く」ための文法指導を論じた。さらに国語科教育と他領域、日本語教育との連携の可能性についても言及した画期的研究。



東アジア文字の情報理論

鹿島英一 著

A5判 1006頁 定価16,500円
ISBN 978-4-7599-2389-6 (2021.7)

東アジア固有の文字は漢字及び漢字の影響下の文字と雲貴高原の絵文字群に大別される。本書は定量的データから文字大系の特徴に迫る。

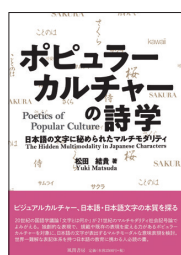


アジアの中の日本文化 —ことば・説話・芸能—

名古屋市立大学日本文化研究会 編

四六判 312頁 定価2,750円
ISBN 978-4-7599-2299-8 (2019.12)

文化を伝える日本語ということば、信仰や言い伝えなどが元となっている説話、そしてことばや所作・体験を総合した芸能などの観点から日本文化を考える。



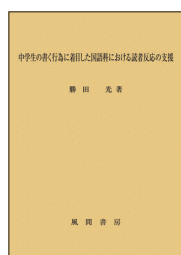
ポピュラーカルチャーの詩学

—日本語の文字に秘められたマルチモダリティ—

松田結貴 著

A5判 218頁 定価2,750円
ISBN 978-4-7599-2285-1 (2019.5)

独創的な表現で規範や既存の表現を変える力があるマンガやJ-POP等のポピュラーカルチャーを対象に、日本語の文字が表出するマルチモーダルな意味表現を検討する。

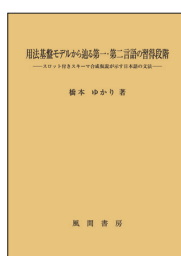


中学生の書く行為に着目した国語科における読者反応の支援

勝田 光 著

A5判 230頁 定価7,150円
ISBN 978-4-7599-2265-3 (2019.1)

読むことの学習指導における教師の役割の多様性と物語創作活動の意義を実証的に究明した書。読者反応研究により主体的・対話的で深い学びに向けた示唆を与える。



用法基盤モデルから辿る第一・第二言語の習得段階

—スロット付きスキーマ合成仮説が示す日本語の文法—

橋本ゆかり 著

A5判 208頁 定価6,600円
ISBN 978-4-7599-2207-3 (2018.4)

スロット付きスキーマ合成仮説の妥当性の検討とともに、第一・第二言語習得における習得段階の違いを考察。フィールドワークの知見に基づき年少者教育へ提言する。

令和3年度 文化功労者顕彰おめでとうございます！



山口仲美 (やまぐち なかみ)

1943年静岡県生まれ。お茶の水女子大学卒業。
東京大学大学院修士課程修了。文学博士。
現在 埼玉大学名誉教授。
専門は日本語学(日本語史・古典の文体・オノマトペの歴史)。
2008年紫綬褒章、2016年瑞宝中綬章受章。
2021年文化功労者に選出。
専門分野関係のテレビ・ラジオ番組にも多数出演。

未開の研究分野に挑戦し続けた
日本語学者 山口仲美の軌跡！
古典の文体・コミュニケーション研究、
オノマトペの歴史研究では、独壇場！

山口仲美著作集 全8巻

全8巻の構成



1	言葉から迫る平安文学 1 源氏物語	614頁 (2018.10)
2	言葉から迫る平安文学 2 仮名作品	614頁 (2018.10)
3	言葉から迫る平安文学 3 説話・今昔物語集	548頁 (2018.12)
4	日本語の歴史・古典 通史・個別史・日本語の古典	632頁 (2019.5)
5	オノマトペの歴史 1 その種々相と史的推移・「おべんちゃら」などの語史	722頁 (2019.10)
6	オノマトペの歴史 2 ちんちん千鳥のなく声は・犬は「びよ」と鳴いていた	616頁 (2019.12)
7	現代語の諸相 1 若者言葉・ネーミング・テレビの言葉ほか	830頁 (2020.5)
8	現代語の諸相 2 言葉の探検・コミュニケーション実話	740頁 (2020.9)

- A5判・上製カバー装 ● 各巻平均665頁 ● 総頁5,316頁
- 各巻 定価 6,380円(税込) ● 揃定価 51,040円(税込) (分売可)
- 内容案内をご希望の方は、直接弊社までお申し込みください。

風間書房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
電話 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

著作集全巻の完結にあたって

予定通り、著作集全巻が二〇二〇年秋に完成した。途中で、疲れて顎を出してしまったこともあるが、ともかく予定通りに刊行できた。私を脅かす隣臓がんも暴れることなく静かに著作集の刊行を見守ってくれた。夢のように思える。

著作集のような全貌の見渡せる著作物を作ると、自分がどんなスタンスをとって研究を進めてきたのかを客観的に俯瞰できるようになる。自分には、次のような二つの傾向が顕著だったように思う。

第一に、従来の国語学では研究されていないテーマを研究対象にする傾向である。古典の文体研究、オノマトペの研究は、その典型。ほとんど研究されていない分野であった。その他、古典におけるコミュニケーション研究、あだ名や売薬名といった命名の研究も、ほとんど注目されていなかった。未開拓分野の研究は、自分で問題を見つけ、解決する方法を考え、調査し、説明していく必要がある。実は、それが、私にとっては、このうえなくワクワクすることだったのである。

第二の自分の傾向は、論文だけではなく、一般向けの発信も行なうことである。論文を書いてみると、一般の人にも知ってほしいと思うような面白い事実が明らかになることがある。すると、私は、論文集の形ではなく、リライトして一般向けの本にして刊行する。『ちんちん千鳥のなく声は―日本人が聴いた鳥の声―』（大修館書店）、『犬は「びよ」と鳴いていた―日本語は擬音語・擬態語が面白い―』（光文社）、『日本語の歴史』（岩波書店）は、その産物。むろん、これらの本も著作集に収めてある。

著作集全巻は、研究者のみならず、一般の方々にも知ってほしい、楽しんでほしい、という気持ちから編まれている。どうかあなたも手に取って気に入った頁から読み始めていただきたい。

二〇二〇年八月一日

山口仲美

1 言葉から迫る平安文学1

二〇一八年一〇月刊
六一四頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第一巻のテーマは「源氏物語」。三部から成る。

I部は、『源氏物語』男と女のコミュニケーション。『源氏物語』に登場する男と女は、どんなコミュニケーションをとっていたのか？ 現代に応用できるコミュニケーション論は、きつとあなたの役に立つ。

II部は、『源氏物語』の言葉と文体。比喻や象徴詞（オノマトペ）や形容語などに注目して、『源氏物語』独自の問題を解明した論を収録。

III部は、『文章・文体研究の軌跡と展望』。『言葉から迫る平安文学』三巻に収録した論文に一貫する著者の立場は、語学的文体論。そうした文章・文体研究についての解説と展望を収録。この分野の草創期を知る上でも重要な論説。

2 言葉から迫る平安文学2

二〇一八年一〇月刊
六一四頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第二巻のテーマは、『仮名作品』。平安時代の仮名で書かれた『源氏物語』以外の日記・随筆・物語を対象としている。四部から成る。I部は、導入部的な論。

II部は、『物語と日記の言葉と文体』。平安文学作品全体の文体にかかわる問題と、竹取物語・和泉式部日記といった個別の作品の言葉と文体にかかわる問題をあざやかに解明。

III部は、『枕草子』新しい読み方。『枕草子』をマナー集として読むという新しい読み方を提示し、『枕草子』の魅力を味わう。

IV部は、『研究余滴』。仮名文学作品を読んでいて、疑問に思ったこと、感動したこと、主張したくなったことなどを、エッセイ風にまとめたものを収録。

3 言葉から迫る平安文学3

二〇一八年一二月刊
五四八頁

著作集1・2・3『言葉から迫る平安文学』三巻は、言葉や文体、表現やコミュニケーションといった言語学的な立場から平安文学の諸問題を解明する。

第三巻のテーマは、『説話・今昔物語集』。説話文学全般およびその中で傑出している『今昔物語集』を対象に、言葉や文体あるいは表現方法を追究した巻。三部から成る。

I部は、『説話文学の言葉と文体』。直喩法などの表現技法に的を絞って、従来とは違った出典文献との比較という方法で手堅く『今昔物語集』の文体に迫った論などを収録。

II部は、『今昔物語集』の表現方法。『今昔物語集』の表現方法に着目し、読者を魅了してやまない表現方法の秘密を明らかに。

III部は、『今昔物語集』にみる生きる力。読者に勇気と生きる力を与えてくれる話をセレクトし、原文・現代語訳・解説を行ない、『今昔物語集』の持つエネルギーをあぶりだす。

4 日本語の歴史・古典

二〇一九年五月刊
六三二頁

著作集4『日本語の歴史・古典』は、日本語の史的推移を追究した著書や論文を収録したもの。

I部は、『日本語の歴史―通史―』。日本語はどんなふうに進んで、現代にいたるのか？ 日本語の将来を担うすべての人々にむけて、その史的推移をわかりやすく解説。

II部は、『日本語の歴史―個別史―』。日本語を文体、語彙、命名、翻訳語という個別的な観点からクローズアップして、その史的推移を解明。日本人の感覚・感情のあり方、その時代の志向などを浮き彫りにする。

III部は、『日本語の古典』。言葉や表現といった今までとは違った日本語学的な切り口から、古典作品を通史的に取り上げ、その魅力を解き明かす。

この巻は、遠い昔の日本人の熱い血と切なる思いをお伝えできることを願って執筆されている。

5 オノマトペの歴史1

二〇一九年一〇月刊
七二二頁

著作集5・6『オノマトペの歴史』二巻は、オノマトペ（＝擬音語・擬態語）のさまざまな性質や史的推移を明らかにした論文やエッセイを収録。

I部は、「オノマトペの種々相」。『源氏物語』や『今昔物語集』、狂言やコミックなど作品別・ジャンル別にとらえた時に顕著に現われるオノマトペの特色・機能を説明。研究のエキスをぎゅっと詰めこんだ二〇のコラムも、おすすめ。

II部は、「オノマトペの史的推移」。語彙・語音構造・意味・語法などの面からオノマトペの史的推移を追究。男女の泣き方を表すオノマトペ、動物の声を写す擬音語、楽器の音を表す擬音語など、興味津々の史的推移が解き明かされる。

III部は、「おべんちゃら」などの語史。「いちゃもん」「おべんちゃら」「どんぶり」「パチンコ」などオノマトペにルーツを持つと思われる言葉を対象に、その語史を追究。びっくりするような言葉のルーツが明らかに。

6 オノマトペの歴史2

二〇一九年二月刊
六二六頁

著作集6『オノマトペの歴史2』は、オノマトペ（＝擬音語・擬態語）のうち、鳥の鳴き声や獣の声を写す言葉の推移の解明に特化した巻。

I部は、「ちんちん千鳥のなく声は」。カラスやウグイスなど一二種類の鳥の鳴き声を写す擬音語の歴史を辿る。現代人が予想もしなかったような鳴き声から、その時代の人々の暮らしや民話・民間信仰まで解明されてゆく。

II部は、「犬は『びよ』と鳴いていた」。時代とともに推移する擬音語・擬態語の一般的な性格を明らかにし、犬や猫、牛などの獣の声の変化とその原因を追究。日本人独特の感性と文化が光る予想外で楽しい話がいっぱい。

III部は、「オノマトペ研究余滴&エッセイ」。妖しげな言葉、「ちんちんかもかも」はどこから出て来た言葉？「ひゅうどろどろ」は、なぜお化けの出る合図に？オノマトペがあるからこそ可能になる豊かな日本語の世界がここに。

7 現代語の諸相1

二〇二〇年五月刊
八三〇頁

著作集7『現代語の諸相1』は、若者言葉・あだ名・広告表現・テレビの言葉などの現代語をテーマにした著書・論文を中心としている。

I部は、「若者言葉に耳をすませば」。若者言葉はどんな特質を持っているのか？本音全開の座談会を中心に、若者言葉を創りだす方式・特色を実証的に追究していく。

II部は、「ネーミングと広告」。命名行為の秘密を解くカギの詰まった「あだ名」。傑作な「あだ名」の条件とは？また、新聞・ラジオ・テレビにおける広告表現の推移も説明。

III部は、「テレビの言葉」。刻々と変わりゆく言葉の先端を視聴者の立場とテレビを作る立場からとらえている。どうかあなたもテレビで出題された問題を解いていただきたい。

IV部は、「現代語の問題&エッセイ」。日本語教育や敬語表現などに関する論を収録。滅入っている人を元気にさせるのは「言葉の力」。そんなエッセイも最後に収めておいた。

8 現代語の諸相2

二〇二〇年九月刊
七四〇頁

著作集8『現代語の諸相2』は、ユニークな言葉、中国人や医者とのコミュニケーションをとりあげ、エッセイタッチで書いた単行本を収録している。

I部は、「言葉の探検」。ドキッとするような七二の言葉や表現をとりあげ、その特性を説明。冒頭に付いている問題を解いてから本文に読み進むと、論旨が一層明快に。

II部は、「言葉の先生、北京に行く」。中国人の大学教師・リーさんを中心に、彼らのコミュニケーション術やその能力の高さにたじたとする話を収録。

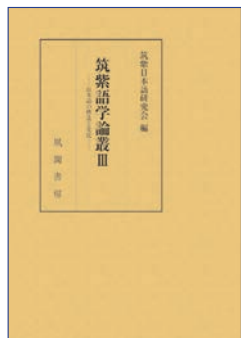
III部は、「大学教授がガンになつてわかったこと」。命に係わる選択を、どのようなコミュニケーションで解決したのか。納得のいく治療を受けるための患者の心得を伝授。

IV部は、「身辺エッセイ&経歴」。身の回りで起きた出来事、私の出会ったステキな先生、日々の思いなどを綴る。最後に、著者のこれまでの歩みを網羅した経歴を収めた。

未開の研究分野に挑戦し続けた 日本語学者 山口仲美の軌跡！

古典の文体・コミュニケーション研究、
オノマトペの歴史研究では、独壇場！





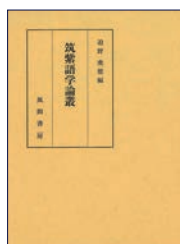
筑紫語学論叢Ⅲ ー日本語の構造と変化ー

筑紫日本語研究会 編

A5判 520頁 定価14,300円
ISBN 978-4-7599-2373-5 (2021.3)

筑紫日本語研究会（旧・筑紫国語学談話会）40周年を記念した論文集。「日本語の構造と変化」をキーワードに、九州を中心としながらも、北海道から関東、関西、中国、四国と、全国にわたる日本語研究者の「力」を結集した。

【目次概要】日本語使役文の用法と歴史的変化（青木博史）／終助詞「なむ」小考（森脇茂秀）／中古散文における「連体形＋ゾ」文の用法－ノダ文・連体ナリ文との共通点と相違点－（勝又隆）／『上井覚兼日記』における「被賜・被給」をめぐる（堀畑正臣）／中世室町期の注釈書における「～トナリ」の用法（山本佐和子）／洒落本における不定の「ぞ」「やら」「か」（川瀬卓）／ソコソコの語史（清田朗裕）／「ワル（悪）＋形容詞」の消長－形容詞語形成の観点から－（村山実和子）／愛媛県宇和島市三間町毛利家の角筆文献と漢詩学習－写本「三體詩 中」を資料として－（西村浩子）／昭和初期、福岡県直方の方言矯正書二種（岡島昭浩）／北琉球語喜界島方言の授与動詞（荻野千砂子）／佐賀東部方言の条件節における準体形式「ト」の挿入－一時制節性からみた条件表現の体系についての一考察－（有田節子）／九州方言の動詞タ形・テ形に起こる音便現象の対応関係：予備的考察（有元光彦）／天草諸方言における音調型と複合名詞アクセントの中和（松浦年男）／出雲方言アクセントの分布と歴史－2拍名詞4類と5類のアクセントをめぐる－（平子達也）／ロシア資料と上代特殊仮名遣工列音一下二段動詞の場合－（江口泰生）／鹿児島方言における対格標示の条件－ロシア資料と近代談話の比較から－（久保蘭愛）／長崎方言の終助詞バイの変遷について－近世近代の長崎史料を中心に－（前田桂子）／大正10年『読売新聞』の日本語関連記事について－「新聞記事データベース」活用の一例として（新野直哉）／連体修飾節と被修飾名詞の関係－スケールを表す被修飾名詞に着目して－（東寺祐亮）／間接疑問文発達の一過程－日本語史を中心に－（衣畑智秀）



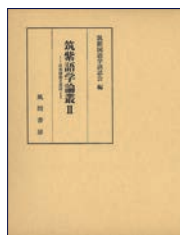
筑紫語学論叢 奥村三雄博士追悼記念論文集

迫野虔徳 編

A5判 548頁 定価16,500円
ISBN 978-4-7599-1270-8 (2001.4)

奥村三雄博士は九州の地で永年にわたって研究教育に専念された。遺稿「『特殊形アクセント』について」を巻頭に、筑紫国語学談話会会員27名による追悼論文集。

【執筆者一覧】奥村三雄／岡島昭浩／高山倫明／江口泰生／内山弘／迫野虔徳／矢野準／関一雄／西田隆政／堀畑正臣／山下和弘／青木博史／荻野千砂子／坂口至／塚本泰造／辛島美絵／林慧君／田籠博／山県浩／柏原卓／岡野信子／杉村孝夫／木部暢子／添田建治郎／崎村弘文／久保智之／有元光彦／田尻英三



筑紫語学論叢Ⅱ ー日本語史と方言ー

筑紫国語学談話会 編

A5判 612頁 定価18,700円
ISBN 978-4-7599-1575-4 (2006.5)

「日本語史と方言」というテーマのもと、音韻・表記、文法、語彙、文献、方言などについてまとめた、迫野虔徳先生の退官と筑紫国語学談話会25周年記念の論文集。

【執筆者一覧】早田輝洋／前田富祺／山口佳紀／柳田征司／鈴木丹士郎／迫野虔徳／佐野宏／江口泰生／高山倫明／奥村和子／矢野準／堀畑正臣／山下和弘／荻野千砂子／青木博史／辛島美絵／山本秀人／前田桂子／播磨桂子／新野直哉／林慧君／田籠博／藤本憲信／山県浩／岡島昭浩／坂本浩一／木部暢子／久保智之／高橋敬一／崎村弘文／杉村孝夫

日本語学会2022年度春季大会

【書籍注文書】

書 名	冊 数	種 別	公費書類		
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書
		公費・私費	見積書	納品書	請求書

公費書類の宛名：

公費書類の日付：

お名前：



〒

ご住所：

- ◆ご注文は、メール（pub@kazamashobo.co.jp）またはFAXにて承ります。
FAXをご使用の際は、本用紙をお使いください。
メールでのご注文の場合は、件名または本文に「日本語学会 2022 年度春季大会」の旨お書きください。
- ◆学会員限定で、全品2割引で販売いたします。
- ◆本チラシに掲載されていない書目については、2021年版 弊社図書目録および弊社ホームページをご覧ください。こちらも2割引で販売いたします。
- ◆送料は弊社で負担いたします。
- ◆お支払い方法については、振替用紙を同封いたします。

風間書房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
電話 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757 振替 00110-5-1853
https://www.kazamashobo.co.jp E-mail pub@kazamashobo.co.jp

2022.4